

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	北陸大学			設置者名	学校法人 北陸大学				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
未来創造 学部	国際教養学科	100人	中一種免(英語)	平成21年度	88人	1人	1人	1人	
			高一種免(英語)	平成21年度			1人		
	国際マネジメント 学科	100人	中一種免(社会)	平成21年度	286人	3人	3人	0人	
			高一種免(地理歴史)	平成21年度			3人		
			高一種免(公民)	平成21年度			2人		
			中一種免(保健体育)	平成21年度			23人		23人
			高一種免(保健体育)	平成21年度					23人
入学定員合計		200人	合計		374人	27人	56人	1人	
備考	・卒業者数には以下のとおり3年次編入学生を含む。 国際教養学科 32人 国際マネジメント学科 132人								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成26年12月11日（木）

実地視察大学：北陸大学

実地視察委員：横須賀薫委員、和泉研二委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等について、教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等を満たしていない点があるので、制度を理解の上、速やかに是正すること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 大学全体の中での教員養成の位置付けや、教員養成に対する理念・構想を示しているが、それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。
- 教職課程委員会は、実務指導が中心となっているため、教職課程委員会を指導するような、教職課程に関する方針を検討する全学的な組織を大学の責任者の下に置き、指導が行き届く体制を発展的に構築するよう努めていただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 大学における教員養成として、大学の学科等に置かれる教職課程は、各学科等の目的・性格と免許状との相当関係について審査の上、その学科等の学位プログラムとしての各科目内容と教育職員免許法施行規則に定める各科目内容の修得によって、教員としての専門性が担保されることが確認されて初めて認定されるものである。国際マネジメント学科は社会・地理歴史・公民・保健体育の複数の異なる学校種・免許教科の免許状を取得可能とされているものの、学生個人への履修指導によって専門性を担保しようとする状況が確認された。今後、コース履修等を検討するなど、各学校種・免許教科の専門性を担保できるよう履修上の配慮・工夫を図っていただきたい。
- 学習指導要領を参考書又はテキストとして定めていない授業科目が散見された。教職課程に必要な授業内容を網羅しつつ、学生にわかりやすいシラバスを作成するよう努めること。
- 「教職に関する科目」について、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「各科目に含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない授業科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うようにすること。なお、シラバスの記載の内容及び記載方針を定め、法令に定める「各科目に含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画が

ら確認できるようにすること。

3. 教育実習の取組状況

- 全般的に学生の母校において実習されている状況が確認された。教育実習は、大学による教育実習の指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。一定の地域において協力校を設けて、継続的に実習や教育見学を実施するなど、地域との協力関係を築き、実績を積み重ねていくよう、引き続き改善に努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職支援室について、相談対応を行うことができる教員を常駐させ、関連書籍を配架する等、全学的な教職指導体制をより充実させていただきたい。
- 教職指導は、履修指導、就職指導のみならず、学生が教職について理解を深め、教職への適性について考察するとともに、各科目の履修等を通して、主体的に教員として必要な資質能力を統合・形成していくことができるように、教職課程の全期間を通じて、大学が計画的・組織的に指導する必要がある。このことを踏まえ、教職実践演習の改善や履修カルテを有効活用する仕組みについて、今後御検討いただきたい。
- 教職に関する科目の履修が2年次からとなっているが、各課程認定大学においては体系的な教職課程のカリキュラム編成・教職指導が求められており、学位プログラムにおける専門科目の履修とあわせて、早期からバランス良く教職に関する科目の履修を行うことが望ましい。教職の魅力を早期から伝えることの重要性も踏まえ、履修時期について御検討いただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 教育委員会と連携協定を締結する等、集中的かつ継続的に現場との関係を構築していき、学校現場体験やボランティアに積極的に取り組んでいただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 体育施設については十分に整っていると言えるが、図書についてはやや古いものが散見された。選書についても、教職課程に関する方針を検討する全学的な組織において、十分に議論された上で配架されるよう、体制について御検討いただきたい。

7. その他特記事項

特になし